

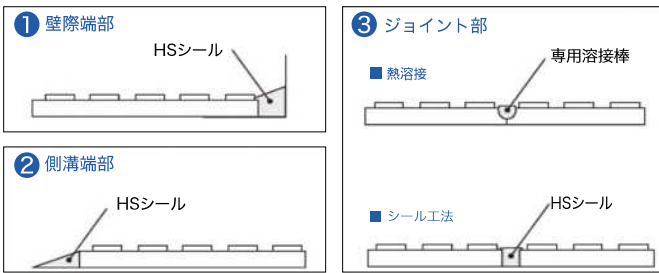
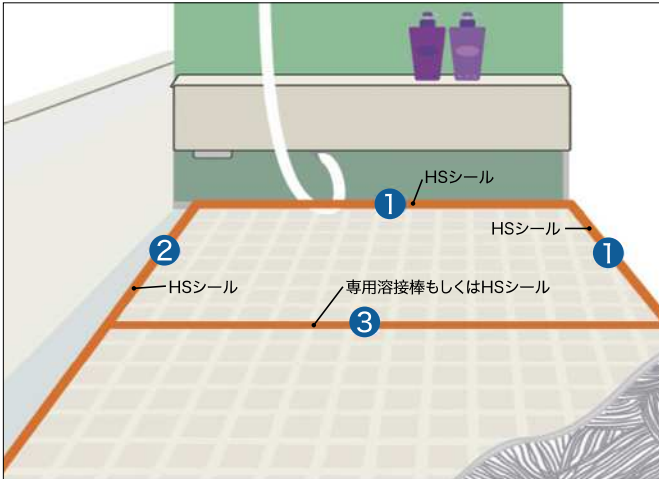
# オフフロア施工説明

## ■基本手順



## ■収まり図

壁際や側溝の端部やジョイント部の全景です。



## ■副資材 シール剤対照表

### 端部処理例



### 排水口処理例 ※円形目皿の場合



### シート/シール剤品番対照表

商品名	シート品番	HSシール品番
オフフロア	OH-20296	BB-574
	OH-20297	BB-574
	OH-20298	BB-574
	OH-20299	BB-574
	OH-20300	BB-563
プレーンエンボス (浴室使用可能タイプ)	PM-20301	BB-574
	PM-20302	BB-574
	PM-20303	BB-563

※上記は床材・各副資材の組み合わせ例であり、完全には色が合いませんのでお含みください。

## 1. 環境・下地の確認と補修方法

オフフロアを施工する下地としての条件に適しているかどうかをチェックします。スムーズに水掃けがなされるよう、なだらかな勾配のある下地作りをしてください。

### ■モルタル・コンクリート下地

下地湿気は、高周波水分計『HI-520-2』D.MODE440未満(グレードI)を条件とします。  
下地の不陸や凸凹はケレンしたりフロアセメント(BB-492・493)で補修します。

### ■セラミックタイル下地

下地に浮きや割れがないかを打診などで確認します。  
目地や不陸、割れなどはフロアセメント(BB-492・493)などで埋めて全体が平滑になるように仕上げます。

### ■FRP下地

FRP下地は補修材や接着剤の密着性に劣る場合があります。全面をサンドペーパーなどで荒らして、FRP用のパテで全面を平滑になるように仕上げます。

下地補修により膨れや凹みができる、水掃け勾配が取れなくなり水掃けが悪くなりますので、必ず平滑でスムーズな水掃けができる勾配を確保してください。

## 2. 材料納入・仮敷き

現場の環境になじませ、運搬時の巻き癖、伸縮などを取り除くために必ず仮敷きしてください。特に低温時や寒冷地の場合、シートが硬くなっているため十分な仮敷き時間をとります。

## 3. 下地の清掃

床の汚れ・ゴミ・ちりなどは接着剤の効力を弱めクレームの原因となりますので、清掃の段階で確実に取り除いてください。

## 4. 割付け・粗切り

施工後の水の流れを妨げないようできるだけ目地が少なくなるように割付けし、長めにカットしておきます。

## 5. シートのカット

壁際に位置する面や排水口などは3~5mm程度シールしろを空けて、巾定規やバースクレイパーなどを用いてカットします。

## 6. ジョイントの裁断

専用溶接棒で継ぎ目処理をする場合は、落とし込み工法で処理します。スクレイパーなどでだけ削いでからカットしてください。

※シール工法で継ぎ目処理をする場合はシールしろを3~5mm透かしてシートを施工してください。

## 7. 接着剤の塗布

EP-300(BB-575・584)を専用クシ目を使用して全面に塗布します。  
※接着剤はA液・B液それぞれを十分攪拌した上でバケツなどに入れて十分に攪拌してください(床面で混ぜ合わせると接着不良の原因になります)。

## 8. シートの貼付/圧着/エア抜き

エアを巻き込んだり、たるみが出ないように、ハンドローラーなどで中央から空気を追い出すようにして貼付けます。  
空気だまりは下地の湿気などの影響を受けて膨れの原因になりやすいため、ちいさなものでも見逃さず必ず取り除いてください。  
施工後は目地部分を含め、シート全面をハンドローラーなどで十分に圧着します。

## 9-1.継ぎ目処理(熱溶接工法)

■オフフロア専用溶接棒を使用します。

### ①溝切り

シートの貼り付け・圧着の後、接着剤が完全に硬化してから、継ぎ目部分をU字もしくはV字に溝切りします。

※溝の深さは、オフフロアの厚みに対して2/3程度としてください。

※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮しオフフロアのエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

### ②熱風溶接

専用溶接機ライスターを使用して目地部分を溶接します。

※熱風の温度が高すぎるとジョイント周辺のシート表面が溶解しツヤが出る場合がありますので十分に注意してください。

### ③余剰部分カット

溶接棒が十分に固まった状態でスパトラナイフなどを用いて余剰部分をカットします。

※溶接棒が固まる前にカットすると後に溶接棒がヤセ、凹みとなる場合がありますので十分に注意してください。

## 9-2.継ぎ目処理(シーリング工法)

■シーリング剤(HSシール)を使用します。

### ①シート施工時にジョイント部を3～5mm空けておきます

※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮しオフフロアのエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

### ②シーリング部分の確認・清掃

シーリングを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。

また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

### ③マスキング処理

仕上がりを美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

### ④充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

### ⑤マスキングテープの除去、養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

## 10.端部・排水口処理(シーリング工法)

■シーリング剤(HSシール)を使用します。

### ①シーリング部分の確認・清掃

シーリングを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。

また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

### ②マスキング処理

仕上がりを美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

### ③充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

### ④マスキングテープの除去、養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

## 11.養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備や接着剤による汚れがないかを確認します。

施工後の汚れや破損を防止するため、必要に応じて養生シートなどで保護してください。

また、シール剤が完全に硬化するまではシール部分を踏んだり、ブラシなどでの清掃は避けください。

## 12.引渡し前清掃

引渡し前に清掃をお願いします。

## 日常のお手入れ

### ①浴室を水洗い

床・浴槽を熱いお湯で洗い流した後、スポンジなどで水洗いをしながら冷たい水で洗い流します。

水洗いでも浴室内の温度を下げる事で熱気がこもらないようにします。

### ②浴室洗剤を使ってブラッシング

浴室には人の脂肪分や石鹸カス、ホコリなど様々な汚れが付着します。浴室用洗剤を使用して、デッキブラシ・浴室用ブラシなどでかきだすようにして清掃します。

### ③換気

浴室は多量の水蒸気が発生します。

換気扇を回す、水分をふき取るなどして湿気を追い出します。

### ④日常メンテナンスのポイント

乾燥して汚れがこびりついてしまう前に、汚れを落とす事がオフフロアをきれいに長く使って頂くコツです。

適正な日常清掃を心がけてください。

## 使用上のご注意

### ①ゴム汚染について

浴室用車椅子の車輪やキャスター、浴室用の椅子や台などに使われているゴム製品が、床材表面に接触すると、ゴムに含まれる成分により汚染される事があります。この汚染は除去することができませんので、ゴムの使用を避けるかゴムが床に直接触れないように下敷きなど保護板を用いてください。

### ②カビ対策について

シートに水分が残っているとカビの原因となります。

長時間使用しない部屋では換気を心がけてください。水垢や髪の毛、石鹸カスなどもカビの原因となります。

### ③重量物を置く場合について

重量物を無理に引きずると剥がれ、膨れなどの原因となりますので注意してください。

局部的に荷重がかかると凹み跡が残る場合がありますので、場所を替えて使用するなど注意してください。

### ④色移りなどについて

毛染め液、ヘアマニキュアなどの着色成分や化学薬品や強い作用を持つ洗剤、漂白剤などにより変退色や変質を招く可能性があります。

こぼれた場合はただちに洗い流してください。また、履物やタオル、ランドリーバックなどに含まれる染料が床材に着色する場合がありますので、放置しないでください。

### ⑤金属さびについて

カミソリやヘアピンなど、さびの原因になるものを放置すると、さびがシートを変色させる場合がありますので、放置しないようにしてください。

### ⑥日常ケアについて

シートの表面に水分が長時間滞留する状態が続くとシート表面が白っぽく変色する事があります。

この変色が発生した場合、充分に乾燥させる事で元の状態に戻りますが、水分が長時間滞留しないよう拭き取りや換気をするなど、こまめなケアが大切です。